

特別支援学級 自立活動学習指導案

自閉症・情緒障害特別支援学級（あすなろ学級2組, 3組）
 10人（3年男子2人, 4年男子1人, 5年男子4人女子1人, 6年男子2人）
 指導者 T1 堀田 梨紗 T2 久永 貴代美

1 活動名 みんなでなかよく話し合おう

2 活動の目標

(1) 全体目標

- 「相手を見る」, 「うなずく」など相手の意図や感情を考えながら聞いたり, 思いやりのある言葉掛けをしたりすることができる。 【人間関係の形成】
- 相手の考えを受け止め, 自分の考えを伝えることができる。 【コミュニケーション】

(2) 個人目標

A児(3年)	○ 相手を見て最後まで話を聞くことができる。 ○ 相手の考えのよさに気付いたり, 自分の考えを相手に分かるように伝えたりすることができる。
B児(3年)	○ 相手を見たりうなずいたりしながら相手の話に関心をもって聞き, 思いやりのある言葉掛けをすることができる。 ○ 相手の考えのよさを認めたり, 自分の考えと根拠を相手に伝えたりすることができる。
C児(4年)	○ 相手の話を, うなずいたり思いやりのある言葉掛けをしたりしながら, 聞くことができる。 ○ 相手と自分の考えを比較し, それぞれのよさを相手に伝えることができる。
D児(5年)	○ 相手を見て話を聞き, 思いやりのある言葉掛けができる。 ○ 相手の考えのよさに気づき, 聞こえる声で伝えることができる。
E児(5年)	○ 相手の話をうなずいたり思いやりのある言葉掛けをしたりしながら, 聞くことができる。 ○ 相手の考えのよさや自分の考えを言葉遣いに気を付けて伝えることができる。
F児(5年)	○ 相手を見て話を聞き, うなずいたり思いやりのある言葉掛けをしたりすることができる。 ○ 相手の考えのよさに気づき, 自分の考えを落ち着いて伝えることができる。
G児(5年)	○ 相手を見て話を聞き, 聞こえる声で思いやりのある言葉掛けをすることができる。 ○ 相手の考えのよさや自分の考えをはっきりと伝えることができる。
H児(5年)	○ 相手を見て最後まで話を聞くことができる。 ○ 相手の考えのよさを認め, 自分の考えを理由を付けて伝えることができる。
I児(6年)	○ 相手を見て最後まで話を聞くことができる。 ○ 相手の考えのよさを考えることができ, 自分の考えを聞こえる声で伝えることができる。
J児(6年)	○ 相手の話をうなずいたり思いやりのある言葉掛けをしたりしながら, 最後まで聞くことができる。 ○ 相手の考えのよさや自分の考えを分かりやすく伝えることができる。

3 活動で育成を目指す「未来の創り手に求められる資質・能力」

表現力	話し合いのテーマについて, 自分の考えを根拠を基に相手に伝える力
協働力	友達とテーマに沿って話し合い, 自分とは違う考えを受け入れて思いやりのある言葉掛けをしたり自分の考えを伝えたりして, 協力して課題を解決する力

4 活動について

(1) 活動設定の理由

これまでに子供は, 「みんなで話し合おう」の学習を通して, 話し合うときの大切なこと（「聞こえる声で話す」, 「最後まで聞く」, 「確かめる」, 「ゆずる」）について学習し, 話し合っただけを一つにまとめる経験をし, 自分の考えを伝えたり, 相手の考えを聞いたりすることができるようになってきている。しかし, 自分と相手との考えが異なった際, 相手の考えを否定する言い方をしたり, 自分の考えに固執し少数意見を聞き入れなかったりすることがある。また, 生活の中では相手の気持ちを推測することが難しく, 自己中心的な発言や行動が見られることがある。

そこで, 本活動では, 仲よく話し合うための大切なこと「あったか心で聞く（うなずく, あいづちを打つ, 相手を見る等）」, 「あったか言葉を使う（それもいいね, そういう考えもあるね等）」を意識して話し合うことで, 相手の考えに共感できるようにする。さらに, 友達の考えのよさを認めたり, 相手の気持ちを推測しながら考えを伝え合ったりすることで, 互いに納得して話し合いを進められるようにする。

指導に当たっては, まず, 今までの話し合い活動を振り返ったり教師の役割演技（動画）を見たりすることで, 仲よく話し合うための大切なことに気付かせる。次に, 大切なことに気を付けながらグループで話し合い活動を行うことで, 相手の考えを否定せずに共感的に聞くことができるようにする。また, 話し合う人数を段階的に増やしていくことで, 難しさに気付かせ, 大切なことをより意識して話し合うことができるようにする。そして, 人数が増えても仲よく話し合えるという成功体験を重ねることで, 交流学級でも生かしてみたいという意欲を高めることができるようにする。

このような活動を通して, 相手に対して思いやりのある態度で接し, よりよい関係を築こうという意欲を高めることができるようになる。また, 他者と関わることの楽しさや喜びを実感し, 自己肯定感や他者に対する信頼感を高めることにつながる。と考える。

(2) 子供の実態

自立活動における10人の実態は様々であるが、主に「人間関係の形成」、「コミュニケーション」の2区分について以下のような実態が見られる。

	人間関係の形成	コミュニケーション	他区分
A児	<ul style="list-style-type: none"> 友達の気持ちや状況を推測することが苦手で、トラブルになることがある。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分の考えを言葉で友達に説明することが苦手で、友達との関わりに消極的である。 	<ul style="list-style-type: none"> 就寝時刻が不規則になりがちで、朝起きることができず、登校が遅れることがある。 【健康の保持】
B児	<ul style="list-style-type: none"> 事前に周囲の状況を説明し適切な行動について考えさせることで、友達のことを考えた行動をとることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分の考えを話すことは得意だが、周囲の状況に配慮した伝え方は苦手である。 	<ul style="list-style-type: none"> 環境の変化が苦手で、気持ちが高ぶり周囲の状況に合わない振る舞いをすることがある。 【心理的な不安定】
C児	<ul style="list-style-type: none"> 勝ちたいという気持ちから、ルールを自分に有利になるように変えようとして、友達とトラブルになることがある。 	<ul style="list-style-type: none"> 相手の状況や気持ちを言葉で伝えることで、相手の立場に立って自分の考えを伝えることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 気持ちが高ぶったときには、時間を空けることで、落ち着いて自分の考えを話すことができる。 【心理的な不安定】
D児	<ul style="list-style-type: none"> 友達の意思を確認しないまま、自分の思いだけで行動しトラブルになることがある。 	<ul style="list-style-type: none"> 気持ちが高ぶると自分の考えや思いを伝えることが難しく、自分で抱え込んでしまうことがある。 	<ul style="list-style-type: none"> 初めての環境や周囲の変化に対して、不安が大きく、集団への参加が難しいことがある。 【心理的な不安定】
E児	<ul style="list-style-type: none"> 友達の失敗を強く注意をしたり、言葉遣いが荒くなったりすることがある。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分の考えを主張しすぎてしまい、友達の意見を受け入れることが難しいことがある。 	<ul style="list-style-type: none"> 注意や集中を持続させて学習に取り組むことが難しい。 【心理的な不安定】
F児	<ul style="list-style-type: none"> 相手の立場や考えていることを推察することが難しいことがある。 	<ul style="list-style-type: none"> 思ったことをそのまま口にしてしまい、相手を不快にさせてしまうことがある。 	<ul style="list-style-type: none"> 間違いを指摘されると反発してしまい気持ちが高ぶることがあるが、その場から離れて時間を空けると落ち着くことができる。 【心理的な不安定】
G児	<ul style="list-style-type: none"> 親しい教師や友達とは楽しく会話をすることができているが、慣れるまで時間が掛かる。 	<ul style="list-style-type: none"> 相手の考えを優先し、自分の主張をしないことがある。 	<ul style="list-style-type: none"> 初めての環境や人が多い場面では緊張が強く、ストレスを抱えることがある。 【心理的な不安定】
H児	<ul style="list-style-type: none"> 自分の考えを伝えることはできるが、相手の話に注意を向けられないことがある。 	<ul style="list-style-type: none"> 相手の立場になって物事を考えることが難しく、友達の考えを受け入れるのに時間がかかる。 	<ul style="list-style-type: none"> 周囲のことに気が散りやすく、一つ一つの行動に時間が掛かり、生活リズムが崩れやすい。 【健康の保持】
I児	<ul style="list-style-type: none"> 慣れない環境で緊張が強いと、相手の話に注意を向けられないことがある。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分の考えを言葉で伝えることが苦手で、話合い活動には消極的である。 	<ul style="list-style-type: none"> 人と関わることに消極的になったり、受け身になったりすることが多い。 【心理的な不安定】
J児	<ul style="list-style-type: none"> 自分の考えを主張したい気持ちが強く、相手の考えの意図を考えることが難しい。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分の考えを強い口調で主張してしまったり、相手の考えを受け入れることが難しかったりする。 	<ul style="list-style-type: none"> 周りの様子が気になり、集中を持続させることが難しい。 【心理的な不安定】

5 指導に当たって

(1) 「自分のめあて」をもたせる教師の手立て

「つかむ・見通す」過程では、これまでの話合い活動を想起させ、「仲よく話し合う」という本活動の学習課題と自分の経験を照らし合わせることで、自分の課題を知ることができるようにする。そして、できたかなカード（自己評価カード）でこれまでの自分を振り返ることで、自分の課題を焦点化し、「自分のめあて」を明確にもつことができるようにする。さらに、活動マップでこれからの活動について見通しをもつことで、「自分のめあて」を活動全体で継続して意識することができるようにする。

(2) 「学び合い」を活性化する教師の手立て

「活動する」過程では、思考共有ツールとしてホワイトボードや短冊カードを活用し、互いの考えを可視化して共有することで、自分の考えを伝えやすくなりみんなの考えを一つにまとめやすくなりやすくなる。また、グループでの話合いの際、話合いが停滞しているグループには教師が支援することで、子供同士の考えをつなげたり、個人の考えをグループ全体に広げて共有したりし、新たな考えに気付くことができるようにする。

(3) 学びを振り返り、学びを価値付ける教師の手立て

「振り返る」過程では、互いの考えが違って仲よく話し合うことができた理由について考えることで、「仲よく話し合うための大切なこと」のよさについて理解することができるようにする。さらに、できたかなカード（自己評価カード）で「自分のめあて」の振り返りをする際、次時の「自分のめあて」につながる課題や他の学習、実生活へのつながりを意識できるような記述例を提示することで、今後も大切なことに気を付けて仲よく話合いをしようという意欲を高めることができるようにする。

6 指導計画(総時数 7 時間)

これまで習得した既得の知識				
① 話し合いをするときは、友達の話最後まで聞く。 ② 話し合いをするときは、「あったか言葉」を使って話す。				
過程	時間	指導のねらいと主な活動内容	知識の理解の質の高まり	本活動外での評価
つかむ・見通す(1) 活動する(4) 振り返る(2)	1	「仲よく話し合うための大切なことを考えよう」 【指導のねらい】 前回の話し合い活動を振り返り、仲よく話し合うための大切なことを考えることができる。 【活動内容】 ○ 前回の話し合いの様子を振り返る。①② ○ 動画を見て、仲よく話し合うための大切なことを考える。(『あったか心』で聞く, 『あったか言葉』を使う) ○ 本時を振り返り、次時への見通しをもつ。	みんなで仲よく話し合うためには、どんなことに気を付ければよいのかな。 仲よく話し合うための大切なことに気を付けて話し合ってみよう。	
	2	「たくさんの考えを出すために仲よく話し合おう」 【指導のねらい】 グループでブレインストーミングをして、「仲よく話し合うための大切なこと」のよさについて実感することができる。 【活動内容】 ○ 3人で「あったか言葉」について考える。②② ○ 5人で「わりばしの使い方」について考える。①②	「あったか言葉」を使ったら、友達も笑顔になって仲よく話し合うことができたぞ。	交流学級 友達に「あったか言葉」を使うことができたか。
	2 本時(2/2)	「考えを一つにまとめるために仲よく話し合おう」 【指導のねらい】 グループで、「仲よく話し合うための大切なこと」に気を付けながら、テーマに沿って仲よく話し合うことができる。 【活動内容】 ○ 3人で「桃太郎の動物の中で、旅に連れて行くならどの動物にするか」について話し合う。①② ○ 5人で「アンコール給食のメニューを一つ決めよう」について話し合う。①②	やっぱりうなずいたり「あったか言葉」を使ったりして話し合うと、意見が違ったときもけんかにならずに仲よく話し合えたな。	交流学級 〈道徳〉 「温かな思い」 登場人物の気持ちを考えることができたか。
	2	「みんなで仲よく話し合おう」 【指導のねらい】 「仲よく話し合うための大切なこと」に気を付けながら、テーマに沿って仲よく話し合うことができる。 【活動内容】 ○ 「あすなるお楽しみ会」について話し合う。①② ○ お楽しみ会を実行する。	みんなで話し合えるかな。 人数が増えても、大切なことに気を付けて話し合うと、みんな気持ちよく仲よく話し合えるね。	交流学級 〈学級活動〉 話し合い活動で、大切なことに気を付けて話し合うことができたか。 交流学級 相手のことを考えながら行動することができたか。

本活動で習得が期待される概念的な知識	
①	相手を見たりうなずいたりしながら「あったか心」で友達の話と聞くと、互いに気持ちよく話し合うことができる。
②	友達の考えに「あったか言葉」を使って返すと、互いに気持ちよく話し合うことができる。

新たな学び

学級活動「2学期の反省」 【指導のねらい】 2学期を振り返り、楽しかったことや頑張ったことについて「あったか言葉」や「あったか心」を意識して、交流学級の友達と話し合うことができる。
--

7 本 時(5/7)

(1) 目 標

考えを一つにまとめるために、仲よく話し合うことができる。

個人目標	A児3年	自分の考えを相手に意欲的に伝えることができる。	F児5年	相手と考えが違っても、進んで自分の考えを伝えることができる。
	B児3年	相手の考えのよさを伝えたり、根拠を基に自分の考えを相手に伝えたりすることができる。	G児5年	話し合いの際には、グループの友達の様子を見ながら、考えを伝え合うことができる。
	C児4年	相手の話を聞き、思いやりのある言葉掛けをすることができる。	H児5年	相手の考えのよさを考えることができ、思いやりのある言葉掛けができる。
	D児5年	相手の考えを最後まで関心をもって聞き、考えのよさを伝えることができる。	I児6年	相手の話を最後まで聞き、自分の考えを聞こえる声で伝えることができる。
	E児5年	相手と考えが違っても、言葉遣いに気を付けて自分の考えを伝えることができる。	J児6年	相手の考えのよさを伝えたり、自分の考えを落ち着いて伝えたりできる。

(2) 展 開

教師の言葉掛け 予想される子供の反応 聞く、話す、見る、動く 学びを充実させるための活動 評価に関すること

過程(分)	主な学習活動と予想される子供の反応	教師の手立て
つかむ・見通す(10)	<p>1 学習の流れを確認する。聞く 見る</p> <p>2 前時までの学習を振り返り、「仲よく話し合うための大切なこと」について確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「あったか心」で聞く (うなずく、あいづちを打つ、相手を見る) ・「あったか言葉」を使う <p>3 本時のめあてを確認する。</p> <p>(1) 本時のめあてを考える。</p> <p>考えを一つにまとめるために、5人でなかよく話し合おう。</p> <p>(2) 「自分のめあて」を決める。</p> <p>意見が分かれても、大切なことに気を付けて、仲よく話し合おう。</p> <p>4 話し合いをする。話す 聞く</p> <p>(1) 話し合いのテーマやルールを確認する。</p> <p>「アンコール給食のメニューを一つ決めよう」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全員が考えを発表する。・時間内に決める。 <p>(2) 自分の考えをまとめる。</p> <p>(3) グループで話し合いをする。</p> <p>カレーが好きな人が多いから、カレーにしたらどうかな。</p> <p>それもよいね。でも同じくらい鶏飯も人気があるよ。どうする。</p> <p>(4) 話し合いの様子を振り返る。</p> <p>意見が分かれても、仲よく話し合えたのはどうしてかな。</p> <p>〇〇さんが「その考え、よいね。」と言ってくれたから嬉しかったな。</p> <p>友達がうなずきながら聞いてくれたので、話しやすかったよ。</p> <p>「あったか心」で聞いたり「あったか言葉」を使ったりすると、仲よく話し合うことができることに気がきましたね。これからも互いを思いやる気持ちを大切に話し合いましょう。</p>	<p>○ 「活動マップ」を提示することで、前時までの学習を想起し、本時の学習の意欲を高めるようにする。</p> <p>○ 「仲よく話し合うための大切なこと」を確認させ、「これまでの自分を振り返らせることで、「自分のめあて」を明確にして学習に取り組むようにする。</p> <p>(個に応じた具体的な手立て)</p> <p>A児 自分の考えを書く際、教師と一緒にワークシートに書くことで、自信をもって考えを発言できるようにする。</p> <p>B児 話し合う前に「自分のめあて」や大切なことを確認させることで、目的意識をもって話し合いに臨めるようにする。</p> <p>C児 相手の考えを聞く際に大切なことを意識させることで、温かい心で共感的に聞くことができるようにする。</p> <p>D児 「あったか言葉」の例を掲示し確認させることで、相手に対して思いやりのある言葉掛けができるようにする。</p> <p>E児 「あったか言葉」の例を掲示し確認させることで、言葉遣いに気を付けて自分の考えを伝えることができるようにする。</p> <p>F児 多数決でなく考えのよさを意識して話し合わせることで、意欲的に自分の考えを伝えることができるようにする。</p> <p>G児 話型カードを提示することで、自分の相手と違う考えであっても自信をもって伝えることができるようにする。</p> <p>H児 自分と違う意見でも、相手の考えのよさを意識させることで、思いやりのある言葉掛けができるようにする。</p> <p>I児 教師と一緒に自分の考えをワークシートに書くことで、自分の考えをもって話し合いに参加できるようにする。</p> <p>J児 「あったか言葉」を意識させることで、相手の考えのよさを認めることができるようにする。</p> <p>○ 話し合いの際は、普段の関わり合いの実態を考慮して、各グループにリーダーとなる子供を割り当てたり、安心して自分の考えを伝え合うことができるメンバーでグループを作ったりすることで、話し合いがスムーズに進むようにする。</p> <p>○ 山下小の子供に事前に行ったアンケートから六つのメニューを設定し、その中からリクエストするメニューを一つ選ぶことで、自分の考えを意欲的に書くことができるようにする。</p> <p>○ 話し合いの前にもう一度「自分のめあて」を確認させることで、意識させながら話し合うことができるようにする。</p> <p>○ 話し合いの視点(「山下小のみんなが喜ぶメニュー」)を明確にすることで、根拠をもって話し合いができるようにする。</p> <p>○ 話し合いの中で活用できる「あったか言葉」の一覧表をグループに提示することで、常に「あったか言葉」を意識しながら話し合いができるようにする。</p> <p>○ ホワイトボードを使って考えをまとめることで、それぞれの考えを視覚的に捉えることができるようにする。</p> <p>○ 教師がそれぞれのグループにつき、必要に応じて支援することで、子供の考えを広げたり子供同士の考えをつなげたりすることができるようにする。</p> <p>○ グループごとに話し合いの様子を振り返る際、互いの考えが違って仲よく話し合うことができた理由について考えることで、「仲よく話し合うための大切なこと」のよさについて理解することができるようにする。</p> <p>◆ 大切なことに気を付けながら話し合うことができたか。(協働力 観察・自己評価カード)</p> <p>◆ 相手と互いの考えのよさを認め合い、考えを一つにまとめることができたか。(観察・自己評価カード)</p> <p>○ 「できたかなカード(自己評価カード)」に今日頑張ったことを書くことで、「大切なことに気を付けながら仲よく話し合った喜びや達成感を感じる」ことができるようにする。</p>
活動する(30)		
振り返る(5)	<p>5 「自分のめあて」を確認する。</p> <p>やっぱり「あったか心」で聞いたり「あったか言葉」を使ったりすると、仲よく話し合えるね。交流学級でも使っていたいな。アンコール給食も楽しみな。</p>	
	6 次時の学習の内容について知る。	

め自分の

学び合い

振り返り

